

# ワコアフリース製品規格

2019年3月22日 制定

2021年3月19日 改正

## 1.目的

本規格はワコアフリースの製品規格について必要事項を定めたものである。

## 2.適用範囲

一般社団法人日本壁装協会（以下「協会」という。）の会員が製造もしくは販売する以下の壁紙及び接着剤に適用する。

壁紙 ポリエステル等の合成繊維をパルプと混合した壁紙用不織布を用いて、表面に何らかの意匠性を持たせる為の加工を行った壁紙

接着剤 デンプンもしくはメチルセルロースを主成分とする接着剤

## 3.品質

本規格第4項にて規定する剥離性、接着剤塗布後伸度以外の壁紙及び接着剤の品質に関しては使用上の実用性を損なわないものとする。壁紙はJIS規格（JIS A 6921）相当とする。また、壁紙、接着剤共にホルムアルデヒド放散区分F☆☆☆☆の性能を満たし（JIS認証またはホルムアルデヒド発散等級の国土交通大臣認定を取得）、壁紙は協会の壁紙品質情報管理システムに登録されたものに限る。

## 4.規格

表1の規格を満たすものとする。

表1 ワコアフリース規格

分類	項目	規格	適用試験条件
壁紙	剥離性	1回目 合格 2回目 合格	5.2.1
	接着剤塗布後伸度	100.5%以下	5.2.2
接着剤	剥離性	1回目 合格	5.3.1
		2回目 合格	

## 5.試験

試験は特に規定しない限り、JIS Z 8703に規定する常温常湿状態〔温度 $20\pm 15^{\circ}\text{C}$ 、相対湿度 $65\pm 20\%$ 〕で行う。

### 5.1.試験片の大きさ、量

壁紙試験片は表2に示す大きさで採取し、接着剤はそれぞれの指定量で使用する。

壁紙試験において使用する接着剤（以下「基準接着剤」という。）及び接着剤試験において使用する壁紙（以下「基準壁紙」という。）の各内容は、別紙記載のとおりとする。

表 2 試験片の大きさ、量

分類	項目	壁紙大きさ 縦×横 (mm)	接着剤量
壁紙	剥離性	900×有効幅 <sup>※1</sup>	基準接着剤の指定量
	接着剤塗布後伸度	500×有効幅 <sup>※1</sup>	基準接着剤の指定量
接着剤	剥離性	基準壁紙 900×900	試験対象接着剤の指定量

※1 有効幅とは施工可能な幅をいう。柄合わせをするものは柄合わせ施工の有効幅をいう。

## 5.2 壁紙試験方法

### 5.2.1 剥離性試験方法

剥離性試験は同一の石膏ボード（建設省告示第 1400 号並びに 1401 号で定められたもの）下地に対して 2 回行う。

壁紙の有効幅が石膏ボードの幅（910mm）を超えるものは、石膏ボードの幅以下（おおよそ 900mm）に裁断する。

壁紙の有効幅が石膏ボードの幅（910mm）より小さいものは、有効幅のままとする。

試験対象となる壁紙裏面、もしくは石膏ボード面に別紙に規定する基準接着剤を塗り、石膏ボードに張り付ける。

壁紙裏面、石膏ボード面のどちらに接着剤を塗るかは試験対象となる壁紙の特性により選択をする。

張り付け後、完全に接着剤が乾燥した後、剥離を行う。

剥離の程度は表 3 によって、2 段階で目視・感覚で判定する。

表 3 剥離性の判定基準

剥離性	判定基準
合格	容易に剥離でき、不織布の一部（概ね 10%以下）が石膏ボード面に残る
不合格	大部分で層間剥離が起こる、または石膏ボードの表装紙を剥がしてしまう 実用上問題があるほど剥離が軽すぎる

1 回目の剥離性試験の後、剥がした後の石膏ボードを水拭きして接着剤の残を拭き取り、同じ場所に 1 回目と同様に張り付け、剥離性試験を行う。

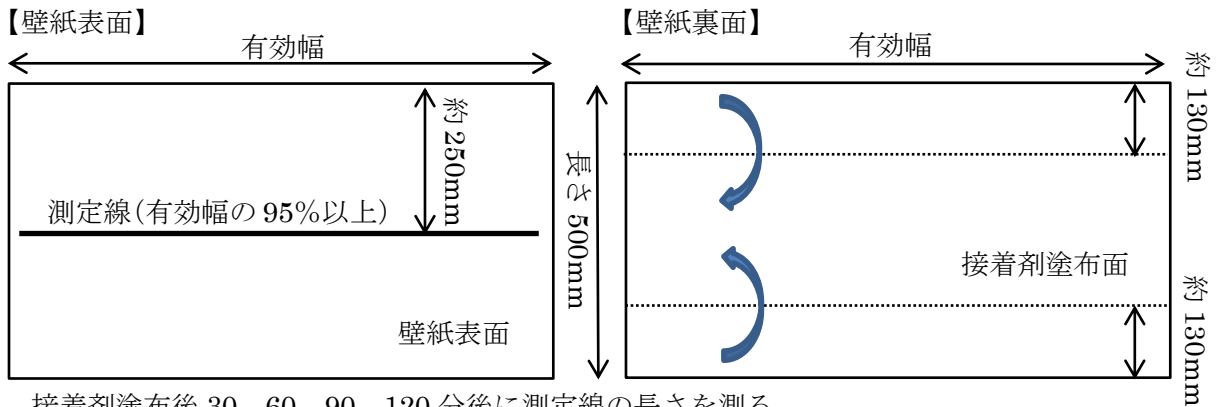
参考値として引張力測定器等を用い、縦方向 3cm 巾の 180° 剥離強度試験を行う。

### 5.2.2 接着剤塗布後伸度試験方法

試験対象となる壁紙を長さ 500mm に切り、図 1 のように壁紙表面の幅方向に有効巾の 95% 以上の長さの測定線を引く。

裏面に基準接着剤を塗布し、接着剤面を内側にして図1のように折りたたむ。

図1 測定線及び折りたたみ方法



接着剤塗布後 30、60、90、120 分後に測定線の長さを測る。

4 回測定した測定線のうち最大長さを元の測定線の長さで割り、その比率を百分率であらわしたものを接着剤塗布後伸度とする。

### 5.3 ワコアフリース接着剤試験方法

#### 5.3.1 剥離性試験方法

剥離性試験は同一の石膏ボード下地に対して 2 回行う。

別紙に規定する基準壁紙裏面に試験対象接着剤を塗り、石膏ボードに張り付ける。

張り付け後、完全に接着剤が乾燥した後、剥離を行う。

剥離の程度は表 4 によって、2 段階で目視・感覚で判定する。

表 4 剥離性の判定基準

剥離性	判定基準
合格	容易に剥離でき、不織布の一部（概ね 10%以下）が石膏ボード面に残る
不合格	大部分で層間剥離が起こる、または石膏ボードの表装紙を剥がしてしまう 実用上問題があるほど剥離が軽すぎる

1 回目の剥離性試験の後、剥がした後の石膏ボードを水拭きして接着剤の残を拭き取り、同じ場所に 1 回目と同様に張り付け、剥離性試験を行う。

参考値として引張力測定器等を用い、縦方向 3cm 巾の 180° 剥離強度試験を行う。

#### 附則

1. 本規格に定めのない事項または疑義が生じた場合は、ワコアフリース委員会で決定する。この場合、ワコアフリース委員会は、必要に応じて理事会に報告する。
2. 本規格の改廃は、ワコアフリース委員会が決定する。ワコアフリース委員会は、本規格の改廃を行う場合、必要に応じて理事会に報告する。

<別紙>

■ワコアフリース規格 基準接着剤

接着剤メーカー名	ヘンケル（ドイツ）
品名	Metylan Spezial
接着剤希釈量	接着剤（粉体）200g に対し、4L の水で希釈
指定塗工量	150～200g/m <sup>2</sup> ※試験壁紙の特性により塗工量は上記範囲内で調整できる。

■ワコアフリース規格 基準壁紙

壁紙メーカー名	アキレス（株）
壁紙品番	DW-1001M、DW-1004M
使用フリースメーカー名	ラーンペーパー（ドイツ）
フリース坪量	85g/m <sup>2</sup>
材料区分	塩ビ系壁紙
表面フィルム	無し